

「藤井寺市立幼稚園・保育所再編実行計画（前期計画）（案）」についてのパブリックコメント実施結果

1. パブリックコメント実施状況

(1) 意見募集期間

平成30年6月21日（木）～平成30年7月31日（火）

(2) 提出者数

・提出者数 56名（うち要件等非該当数0名）

2. お寄せいただいた主なご意見と市の考え方

※関連するご意見を要約して抜粋しています。（全文は別紙参照。）

番号	お寄せいただいた主なご意見※	ご意見に対する市の考え方
1	<p>【計画の中止・延期の要望について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統廃合に伴う具体的な問題の解決策が何も決まっていなのに、計画を進めるべきではない。 ・統合を1年先送りしてほしい。 ・住民合意のないまま計画を進めないでほしい。 ・公立幼稚園の魅力は、地域密着、家から近くで地震などの災害時は安心、そのまま小学校に上がる、と思う。今回の再編案では、その全てが失われる。 ・前期計画が失敗となった場合、後期計画で検討するのでは、その間に通う子どもたちにとっては一度きりの園生活が、家から遠く危険で、園児が少なく、進学する小学校と遠く、働きに出ない家庭にとっては預かり保育も利用しないので、デメリットばかりの2年になる。 ・計画案は公共施設マネジメント推進本部の下部組織として新たに藤井寺市立幼稚園・保育所あり方検討部会が設置され、その中で制定されている。計画案が施設再編ありきで、その場所を利用する子供たちやそれぞれの家庭事情については後に回されている。 	<p>市立幼稚園・保育所の再編につきましては、市の公共施設マネジメントにおける取組の一つとして行われており、平成29年3月に策定された「藤井寺市公共施設再編基本計画」（以下「再編基本計画」という。）に示される「再編のための重点取組」を具体化するため、「藤井寺市公共施設マネジメント推進本部」（以下「推進本部」という。）の下部組織として新たに「藤井寺市立幼稚園・保育所のあり方検討部会」が設置され、計画（案）の立案・検討し、推進本部に報告を行ったうえで、今回の「藤井寺市立幼稚園・保育所再編実行計画（前期計画）」（以下「前期計画」という。）が策定されるものです。</p> <p>公共施設マネジメントそのものは、限りある資源をいかに有効活用して公共サービスを維持・拡充していくかを中心に議論が行われ、市立幼稚園については、その定員充足率の低さから重点取組として適正な施設数の検討や保育所・他の施設との複合化などを含む検討の実施を決定したものです。</p> <p>市立幼稚園の園児数は、今後の利用者数推計を含め、施設の規模・数と合致しておらず、適正化が必要であると同時に、学級人数の低下について</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • いずれ統合による再編は必要だと思うが、幼稚園の運営方針が未定のままで計画を実行するには反対。 • 6月の広報に掲載して2ヶ月程度で結論を出すには、理解し、考える時間もないため数年先単位で結論を出して欲しい。 • 遊具のある公園もなく遊ぶところはない、赤ちゃんを産める産婦人科もなく、幼稚園までなくなったら藤井寺で子育てしたいって思う人がいなくなるんじゃないかと心配しています。 • 現在開始されているあひる組の園児たちが、来年度幼稚園を選択制にさせられ、バラバラに幼稚園に通うようになったとしても統合を進める必要はあるのか。 	<p>は喫緊の課題であり、特に平成29年度から平成30年度の園児数については、例年のない急激な減少を示しており、予断を許さない状況であると判断をしました。</p> <p>こうした中、それぞれの課題に対応するため、計画を前期と後期に分割し、今回策定した前期計画では、学級人数の低下による集団教育の効果に支障をきたすことを未然に防ぎ、施設数の適正化を図るとともに教育環境の向上等を合わせて実行するため、お示ししております年度で市立幼稚園の計画的な統合を進めていきたいと考えています。</p>
2	<p>【計画への理解・容認について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっと早くからこの統廃合の検討はされるべきであったと思う。 • 市立幼稚園については、定員割れがあり、統廃合は仕方ないことかとは思いますが。 • 今、行政に求められているのは、時代を読み、いかに手を打つか。幼稚園8園が4園に再編する旨の実行計画（前期計画）が示されているが、打ち出すのが遅いくらい。民間にできることは民間に、どうしても公がしなければならぬ施策を公にさせる。 	<p>市立幼稚園の統廃合に関しましては、過去より就園率は減少傾向にありましたが、集団教育の効果が不十分となるような幼稚園の状況が顕著になったため、教育・保育環境の向上も考慮し、統廃合の検討を行うことにしました。</p> <p>今後、後期計画に向けては、市立幼稚園のみならず、保育所等についてもその利用者数の動向を注視し、ニーズの変化を見極めるとともに本市にとって最も適切な施設配置を行うことを目的として、柔軟に対応していきたいと考えています。</p>
3	<p>【計画の周知・説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広報での載せ方では統廃合に気付きにくいと思う。大切な問題なのに、保護者の意見をきいてもらえずおかしいと思う。 • 社会の変化により、前期計画（案）の立案は避けられないことであると理解できるが、在園児や保護者の理解を得ているかは疑問。 • もっと広報で周知してほしい。 • 広報での幼稚園の統合の知らせ方が簡易すぎる。周りのお母さんたちも統合の話を知らない人が多い。 • 保護者の意見を聞いてほしい。 • 忙しい子育て世代に確実に情報が届くよう、個別に通知を出すか、せめて詳細情報を広報に載せるべき。 • 年度が始まってからの告知では、不安を抱かれ不満が爆発するのは当然。 	<p>再編基本計画の立案に当たっては、学識経験者、関係団体及び市民代表の方に検討に参画いただき、市民説明会8回(68名)及び出前講座1回(22名)の開催、パブリックコメント(71件)を行うなど、可能な限りお声をお聴きしながら取り組んできました。</p> <p>前期計画につきましては、パブリックコメントに1ヶ月超の期間(平成30年6月21日～7月31日)を設け、7月3日～12日にかけて各幼稚園にて保護者説明会(227名)を行いました。また、計画の策定に当たっては、市ホームページやFacebook、子育てアプリを始め、9月号広報でも大きく取り上げるなど、周知と説明を行っております。</p> <p>今後も引き続き、周知に努めてまいります。</p>

<p>4</p>	<p>【パブリックコメントについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> • パブリックコメントに寄せられた意見は原文で記載し、意見に対し正確で具体的な回答を求める。 • パブリックコメントが7月31日までで園の申込みが10月というのは、期間がなさすぎます。 • パブリックコメントの受付期間を延長してほしい。 • 次の入園申し込みの10月に間に合うように回答を出すという説明があったが、専門家や関係者などを招いてコメントの内容を検討していただくには回答が数ヶ月で間に合うとは思えない。 • 全ての説明会で出た意見をパブリックコメント扱いし、偽りなく全てを公表してください。 	<p>パブリックコメントにつきましては、市立幼稚園・保育所に設置し、実施期間についても6週間弱の期間を設けるなど、周知に努めたものです。</p> <p>また、パブリックコメントにてお示ししました計画（案）につきましては、市の子育て施策全般における審議を行う「藤井寺市子ども・子育て会議」に諮るなど、外部委員の意見も聴取をしています。（当該会議の記録は、市ホームページにて閲覧できます。）</p> <p>パブリックコメントにつきましては、提出方法を定めておりますため、所定の用紙にてご提出していただく必要がございますが、保護者説明会にて挙げられたご意見につきましては会議録を作成し、市ホームページ上で公開をしています。ご意見の内容につきましても、関係部署と共有し、課題解決を図ってまいりたいと考えています。</p> <p>なお、寄せられましたご意見につきましては、別紙にその全文を転記して公開（個人情報を除く。）していますので、そちらをご参照ください。</p>
<p>5</p>	<p>【市立幼稚園の魅力づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 統合により公立幼稚園の魅力が失われる。 • 園のPRをもっと行うべき。 	<p>現在、各園で取り組んでいる魅力づくりについては、小学校との連携を含め、可能な限り継続する方針で進めています。</p> <p>また、目に見える魅力づくりとして、預かり保育の実施は大きな魅力になると考えています。就労などの都合でこれまで公立園を選択できなかった方、また、就労はしていなくても兄弟のいるご家庭などの保護者にとってもニーズが高く、非常に便利な制度となりますので、新たな魅力として積極的に周知してまいりたいと考えています。</p>
<p>6</p>	<p>【就園率の向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 集団を重要としているのなら、なぜもっと早く対策をとらなかったのか。 • 統廃合前に入園児を増やす取り組みは行われてきたのか。 • 統合により移転する人たちのメリットが無いため、統合によって人数が増えるとは考えられない。 • 「あひる組」に関しては公立幼稚園の入園を決めていたうちの子には、スムーズに園生活に入れたのでとても良く、ありがたいと思っている。 • 今回の統合で、各園が望ましい学級人数になる確証があるのか。 • 園児が偏って入園した場合、望ましい学級人数を超過するがどうするのか。 	<p>就園率を向上させるための施策としては、各市立幼稚園におきまして、園児や地域の実態を踏まえた教育活動を進め、特色のある幼稚園づくりに取り組んでいます。このような教育活動の様子を保護者や地域の方々に広く発信するため、ホームページにおいて教育活動の紹介を行っています。</p> <p>また、未就園児を対象として、月2回園庭や保育室を開放し、幼稚園の教育活動を体験する「きりりキッズ」を実施しておりますが、これに加え、平成28年度より3歳児を対象とした「あひる組」事業を実施しています。</p> <p>さらに、小・中学校で実施される行事や地域で開催される行事に、園児や教職員が参加し、日常の教育活動の様子を広く知っていただくよう努めています。</p>

		<p>今回の統合に当たっては、学級人数の向上を図ることはもちろん、耐震化工事、空調の導入、預かり保育の実施などを行う予定です。この中でも預かり保育に関しましては、従来、市立幼稚園を選択できなかった一部の層にも対応できるようになりますので、就園率の向上に一定の効果があるものと見込んでいます。</p>
7	<p>【集団教育の効果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> •市の幼児教育の現状を理解する指標として集団教育しか挙げられていないことが問題。その上、集団教育の中身もぼんやりとしている。 •道明寺東幼稚園について現4歳児は15人、現3歳児は16人在籍しており、集団教育の効果が薄くなっている・もしくは得られなくなっていると考えるのは難しい人数です。すぐに休園をせざるを得ない状況になるとは言えません。 •説明会では休園を決定づける基準は存在しないとのことだったがそうなれば、急遽休園に陥るという事態も存在しないことになる。実際に、急激に児童数が低下したとされる藤井寺西幼稚園や藤井寺幼稚園、四歳児の人数が十人以下となっている藤井寺南幼稚園や藤井寺南幼稚園野中分園も休園にはなっていない。これを根拠に幼稚園の統廃合を押し進めるのは無理がある。 •望ましい学級人数と言うのは何の説得力もないと思う。まだまだ手のかかる子供達、色々な行動や遅い行動など1人1人ちがいが、それを集団のおりの中にとじこめようとしているように感じた。2年保育を少ない人数とする事も大事なこと。 •少人数で固まってばかりの二年間を過ごした子ども達が、突然大勢の中に放り込まれる方が心配。10人以下の人数で過ごしていて、大勢に対応できるような力がつくとは思えない。 	<p>集団教育を通して、様々な個性が触れ合い、コミュニケーション力、譲り合うこと、我慢すること、協力し合うこと、ルールが必要なこと等、生きていくための基礎となる力を身に付けることができます。</p> <p>また、休園に至るタイミングについては、明確に「何人を下回った場合は休園」というような規定はなく、状況に応じての判断となりますが、前期計画の骨子は集団教育の効果に支障をきたす前に計画的な統合を行うというものです。</p> <p>藤井寺市では、幼稚園の学級人数は、20人以上が適切と考えています。4歳児において20人以上を確保できているのは道明寺こども園のみであり、各園の単学級での運営が常態化していることを鑑みても、適切な集団を確保していくためには施設統合を行う必要があると考えています。</p>
8	<p>【就園児数について】</p> <ul style="list-style-type: none"> •今度はどうしたらたくさんの子供達が幼稚園に集まってくるのか考えて、検討してほしい。 •幼稚園に就園する児童の人数は減ると予想していながら、保育園を必要とする人数がわからないので経過観察を行う、というのは矛盾です。幼 	<p>市としましては、幼稚園に就園する児童数が減少し、保育所等の利用希望者が増加していることから、保護者ニーズが長時間の保育に移行していると考えています。(市立幼稚園だけでなく、市内の私立幼稚園につきましても、年々、利用者数は減少しておりますことからそれが窺がえます。)</p>

	<p>稚園の人数が減るなら保育園の需要はますます高まるはずですし、保育園を必要とする人数がわからないなら、幼稚園の就園人数が減るかどうかもわからないはず。幼稚園統廃合ありきの予想ではなく、正確な予想をもとに方針を検討して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤井寺幼稚園、藤井寺西幼稚園は平成29年度から平成30年度への移行で四歳児クラスの人数を大幅に落としている。他の園と比べても異常に減り幅が大きく、どのような原因が考えられるか。 	<p>保育所等につきましては、利用申込みをしたが入所できていない方（平成30年4月1日現在で71人）や年度途中での申し込みなど市で把握している人数以外に潜在的なニーズもあるものと考えており、こうした点からニーズの全数について正確な把握ができておらず、ふじみ緑地における民間保育所開所（平成32年4月）以降、保育所等の利用実態の経過観察を行うとしているところです。</p> <p>藤井寺西幼稚園につきましては、過去5か年でも入園者が（平成26年度）20人→15人→9人→21人→（平成30年度）9人となっており、本年度のあひる組利用者が8人であることを考慮すると、園としての平均的なニーズは1学年10人弱にまで減ってきているものと考えています。</p> <p>藤井寺幼稚園につきましては、通園区域内の年齢別人口を見ると、15歳183人が0歳90人となっており、当該区域内の児童が年々減少していることも原因の一つと思われます。なお、この地域にある保育所については在園児数の減少はみられませんので、保護者ニーズが長時間保育に移行していることも関係すると考えています。</p>
9	<p>【道明寺南幼稚園への統合理由について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道明寺東幼稚園が道明寺南幼稚園に統合される理由について、市の東部では北側に2園、南側には0園となってしまう公平性に欠けると説明があった。単純に北側、南側の園数を比べるという安易な考えだけではなく災害時における幼稚園の耐久性、立地の安全性などを含めて、道明寺東幼稚園よりも道明寺南幼稚園の方が安全であるから道明寺南幼稚園が選ばれたのか。 耐震性のない藤井寺北幼稚園から耐震化が済んでいる藤井寺幼稚園への統合を先にすべき。耐震性の無い道明寺南幼稚園への統合が1年早くされる理由が分からない。 子ども園や道明寺南幼稚園と同じ市立幼稚園なのに、同じ教育がなされないのは不公平。道明寺東幼稚園に在園している子どもたちを犠牲にするつもりなのか。 	<p>道明寺南幼稚園への統合につきましては、市の東側の施設配置を見た場合、道明寺南幼稚園をなくしてしまうと、南側には幼稚園が0園となり、北側に2園（道明寺こども園を含む。）となるので、公平性を考えて、このような配置にしています。</p> <p>市立幼稚園の耐震化工事については、今回の統合を機に実施してまいります。</p> <p>市としましては、先の学級人数の問題もあり、統合自体は可能な限り早期に行いたいと考えており、統合する園から順番に予算を確保し、設計、工事となる予定です。（本年度は藤井寺南幼稚園の設計にかかる予算が計上されており、今後、道明寺南幼稚園、藤井寺幼稚園の速やかな耐震補強に努めてまいります。）</p>
10	<p>【藤井寺幼稚園への統合理由について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤井寺北幼稚園が無くなると、北小地区に保育所も含め幼児が通う施設 	<p>市立幼稚園の統合に当たっては、これまでの1小学校区につき1幼稚園の配置から、市内の4地域※に1園ずつの新しい体制に移行しますので、</p>

	がなくなってしまう。	<p>藤井寺北小学校区の児童につきましては、藤井寺小学校区の児童と同じく藤井寺幼稚園に通園いただくこととなります。</p> <p>※大まかには藤井寺市都市計画マスタープランに基づく近鉄南大阪線・国道170号線での4分割ですが、幼稚園区が小学校区単位での編成となりますので、細部異なる地域もあります。</p>
11	<p>【4地域における再編について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市を四分割して考えた地域に一園ずつ残すためとありましたが、単純に地域を分割するのではなく、現在その地域で生活している児童数をもとに考えるのが妥当です。 	<p>再編実行計画（案）の立案方針では、道明寺側は道明寺こども園に集約するという案もあり、統合方法が4地域に限定されているわけではありませんが、市立幼稚園については、園を運営していくための学級人数の拡充施策を行ったうえで、通園距離にも配慮し、後期計画が策定されるまでの間は4地域に1園ずつの体制に再編することを立案しました。</p> <p>なお、計画そのものは地域別の児童数をもとに立てられたわけではありませんが、市立幼稚園の園舎が収容できる人数を考えると、4地域に1園でも十分に希望者を受け入れることができると判断しています。</p>
12	<p>【道明寺東幼稚園と第5保育所について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道明寺東幼稚園に入園して間もなく第5保育所との合併の話があり、その後すぐに、この計画はなくなったと話があったが、この段階では道明寺東幼稚園は存続予定だったのか。 H29年11月の広報で、道明寺東幼稚園に第5保育所が移転する話が出ていたが、計画案には記載されていなかった。移転の話は中止になったのか、理由と経緯を広報にて周知してほしい。 	<p>市立幼稚園・保育所の再編実行計画と第5保育所の移転については、原則として別個の検討となっておりますが、それぞれの計画の整合性を図るため、担当部署間において適宜情報は共有していました。</p> <p>第5保育所については、道明寺東幼稚園との統合に向けた検討が行われていたましたが、法的な設備基準や高額の改修費用を要することから「第5保育所を道明寺東幼稚園と一体化する」という方針は撤回しました。</p> <p>この段階で、市立幼稚園・保育所のあり方検討との整合性を図ったうえで、本年4月27日に開催された民生文教常任委員会協議会において議会報告を行い、後日、報告内容をそれぞれ市民の皆さまに周知を行いました。</p>
13	<p>【保育料について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校3年生までの子がいる家庭は、上から数えて3人目になれば無料になるが、4年生になると金額が変わる。一度無料になるのなら、そのまま無料にしてほしい。 	<p>現在、藤井寺市が定めている保育料（利用者負担額）は、国が定める基準及び上限額をもとに定めています。</p> <p>多子軽減の基準については、国が定めるとおりとなっております。幼稚園児（1号認定子ども）については、小学校3年生までに在学する子どもで数えます。なお、市民税所得割額が一定基準以下の方については、小学校3年生までという基準がなく第3子以降は無料となるものです。</p>
14	<p>【預かり保育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年保育のニーズが実際多いのに、こちらは無視してなぜ先に預かり保育をする必要があるのか。待機児童による受け皿にしか感じない。 	<p>平成29年6月に国が示した「子育て安心プラン」によれば、平成34年度末までに女性の就業率が80%に達すると推計されています。女性の社会進出に伴い、長時間の保育に対するニーズが増え続けており、今後もこ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育を実施するという点についても、保育の時間帯や値段など具体的な内容を教えていただきたい。 ・わざわざ預かりに入れてまで働いたら、3年保育の私立園の預かりを選ぶと思う。 ・延長保育をしてほしい。 ・預かり保育を実施するとのことだが、事業内容等については追ってお知らせいたしますとのこと、内容が不鮮明である。 ・長期休暇中の預かり保育を実施してほしい。 	<p>の傾向は続くと予測されています。現在の市立幼稚園の保育時間は午後3時までとなっており、短縮授業や長期休業（夏休みなど）もありますので、今後の就園率向上のためには子どもを預かれる時間を延ばし、時代のニーズに対応していく必要があるとして統合園での預かり保育の実施を計画するものです。</p> <p>この預かり保育については、小学校行事やグループでの集いといったご要望にもお応えできるようになりますので、共働き家庭以外の方にも大きなメリットであると考えています。</p> <p>預かり保育は現在、道明寺こども園（道明寺幼稚園）で実施しており、他の幼稚園にも拡充するものです。そのため、具体的な内容については、道明寺こども園で実施している内容がベースになるものと考えています。</p> <p>※道明寺こども園の現状</p> <p>実施日時：通常保育日 保育終了後～午後5時 長期休業日等 午前9時～午後5時 土・日・祝日及び年末年始は実施しない</p>
15	<p>【エアコン導入について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン導入の予定が立ってから統合すべき。 ・2018年広報に、施策として「市立小中学校及び幼稚園空調設備整備事業」が挙げられていたのに、説明会では耐震工事・エアコン導入の予算や工事計画は未定、工事の実施は早くてH33年夏期休業時の見込みとのことだったが、これは予算の表記もされていた広報の記載と矛盾するのではないか。 ・道明寺南幼稚園の耐震工事と空調整備で多額の税金を使い、小学校や中学校の空調整備の工事ができなくなることはないか。 	<p>幼稚園の空調機器設置につきましては「市立小中学校及び幼稚園空調PFⅠ事業」から切り離して進めることになりました。</p> <p>耐震補強工事においては壁面の補強が必要となりますが、その場所に取り付けた空調機器はいったん取り外すため、機器の傷みを考慮し、耐震補強が完了してから設置しようと考えています。</p>
16	<p>【3歳児保育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤井寺市は、特に幼稚園の選択肢も少なく、妥協して私立幼稚園に通わせている方も多いのが事実。公立幼稚園も3年保育を検討して頂きたいと思う。 ・3歳児から入園できるようにすれば、もっと市立幼稚園に入園する子どもが増えると思う。 	<p>3歳児保育につきましては、保護者のニーズがあることは把握しております。</p> <p>藤井寺市子ども・子育て会議においても、3歳児保育の実施を求める声もあれば、3歳児保育の実施が必ずしも課題解決につながるわけではないという意見も出ており、3歳児保育については、今後の公立園（幼稚園・保育所・こども園）の果たしていく役割の検討などを含め、同会議の下に</p>

<ul style="list-style-type: none"> • 計画を立てる際、幼稚園教諭、保護者、有識者、市民の声が反映されなかったため、市民ニーズである3年保育をつかみ損ねている。 • 3年保育を実施しないのは、藤井寺市の私立園と利用者を取り合う競争関係にならないようにとのことだが、そんな甘い事を言っているのは、他市の私立園にますます藤井寺市の子どもが流れ、共倒れである。市の建前ではなく、1番に市の未来、市民や子どもたちのことを考え、統合と共に3年保育に踏み出すべき。 • 私立幼稚園のニーズを奪い、私立幼稚園が廃園になる可能性があるという説明会でご説明がりましたが、平成29年度で314人が公立幼稚園、421人が私立幼稚園に就園している状態で公立が3年保育（及び給食導入、園バス等）を検討したとして、園バスを出して他市からも児童の受け入れを行っている私立幼稚園のニーズを奪い廃園に追い込むほどの状況になるとは思えません。 • 藤井寺市内の私立と公立で園児の取り合いになることを気にしているのは、他市に園児をとられ、藤井寺市の幼稚園の教育を残していけないのではないかと。 • 統合前に3歳児保育を実施してほしい。 • 市立幼稚園も3年保育、預かり保育をすれば保育園以外の選択肢が増え待機児童も少しは減る可能性もあります。 • 保護者が幼稚園を選ぶ基準は、3年保育があるか、長時間保育があるかである。2年保育、3時お迎えの公立幼稚園を選ぶことは難しい。 • 空き部屋もあり、幼稚園の園児が募集定員が満たない今の時期だからこそ、3年保育を実施できるチャンスだと思います。 • 民間だけ3年保育があり公立が2年保育しかない状態こそ不公平行政。公立幼稚園での3年保育が始まったからといっても民間が甚大な影響を受けるとは思わない。 • 統合の前に3歳児保育、延長保育を是非取り入れて下さい。私立の幼稚園には延長保育、3歳児保育があるから行かせるのです。 	<p>設置予定の「市立幼稚園・保育所運営検討部会（仮）」にて審議に諮る予定となっています。</p> <p>また、待機児童については、1・2歳児を中心に生じており、3歳以上児においては、待機児童はほぼいない状況にあります。そのため、待機児童解消には0歳児から2歳児の利用定員を拡充する必要があります。</p>
<p>17 【給食について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 給食を実施してほしい。 	<p>今回の市立幼稚園統合においては、給食の導入予定はございません。</p>

18	【保育時間について】 <ul style="list-style-type: none"> 今の午後3時までを4時までにするなど、保育時間を延長してほしい。 	<p>今回の市立幼稚園統合においては、保育時間（午後3時まで）の延長はありませんが、預かり保育を実施する予定ですので、有料ではありますが、子どもを保育できる時間は増えることになります。</p>
19	【水曜日の午前保育について】 <ul style="list-style-type: none"> 水曜日の午前保育をなくしてほしい。 	<p>国が定めた幼稚園の教育課程の基準となる幼稚園教育要領においては、幼稚園の1日の教育時間は4時間を標準とすると定められています。このことから園児の心身の状況を考慮し、週の半ばとなる水曜日は午前保育としています。</p>
20	【降園時間の変更について】 <ul style="list-style-type: none"> 職員研修等による降園時間（11時半、2時など）の変更が多すぎる。 	<p>教職員の研修は、教員の資質向上、保育の充実にとって必要なものですが、降園時間の変更については、検討しなければならないと考えます。</p>
21	【その他園の運営内容について】 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園での習い事や部活動の充実。 	<p>市立幼稚園においては国が定めた幼稚園教育要領の主旨に則った幼児期に必要な教育を行っています。また各園において、食育、絵本、創作等、園児の興味関心を引き出す特色ある活動を実施しています。</p>
22	【幼稚園・小学校の連携について】 <ul style="list-style-type: none"> 公立幼稚園の良いところは小学校のとなりにあること。 施設統合によって小学校に慣れることができなくなる。 統合後も小学校と交流をしてほしい。 （5年生交流、音楽朝会など） 市立幼稚園の良さはいずれ進む小学校との連携があることが最大のメリット。（藤井寺）南と統合された時、（藤井寺）西小学校との連携は変わらずにあるのかどうかと不安がある。 統廃合により隣接する小学校が無くなるにあたり、災害時に兄弟の引き渡しなどが困難になるがどうお考えか。 小学校と幼稚園の下校時間が重なり、子どもを迎えに行けなかったり自宅で一人留守番させることになってしまいが、どうお考えか。 入園者が少なくなった場合、今のうさぎ組の子どもが下の子のお世話をしたり、下の子を思いやる気持ちを育む教育が、今までと同じように出来なくなるが、どのように補ってもらえるのか？ 林間、修学旅行の説明会の時間が幼稚園のお迎えの時間になっていることが多く幼稚園児のいる家庭の親は小学校の行事に参加出来なくなる。 幼稚園の送り迎えの時間が小学生の下校時間と重なる時があり、パトロ 	<p>幼稚園と小学校との交流は、双方にとって教育的効果があるものだと認識しています。</p> <p>今後の交流活動におきましては、基本的に1幼稚園と2小学校ということになり、これまでと同じように行うことは難しいと思いますが、これまでに積み重ねてきた経験を踏まえて、子どもたちの実態や実施時期にも配慮しながら、幼小の連携が継続できるように努めてまいります。</p> <p>廃園の予定の園について、統合先の園との交流を行うことは、必要なことだと考えておりますので、園と園の交流についても、子どもたちの実態を考慮した上で、適切に実施していけるように努めてまいります。</p> <p>各園において、子どもの安全を確保することは当然と考えております。災害時の子どもの引き渡しについては、時間を要することになりますが、確実に保護者へ引き渡すまでお預かりします。</p> <p>兄弟関係の在籍する小学校が遠くなるため、保護者にご不便をおかけすることになり申し訳なく思います。今後は幼稚園と小学校が連携をとりながら、可能な限り不便の解消に努めてまいります。</p> <p>小学生の登下校時の安全確保については、日頃からご協力いただきありがとうございます。小学校の子どもたちの安全確保については、今後も地域、保護者の皆様、警察を含めた形で、取り組んでまいります。</p>

	<p>ー的な役割を果たしているが、統廃合後、このようなパトロールを保護者に負担をかけずにどのように補うのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4園配置となった場合、入学予定の学校との交流はできるのか。 ・小学校との交流会だけでなく、幼稚園同士の交流も持ってほしい。 ・説明会では、統廃合後もなるべく続けていくお考えだと伺ったが、今までの交流と比べてどう変わるのか、交流は一体どのような形で、どのような頻度で行われるのか。 	
23	<p>【市立幼稚園の民営化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市では、幼稚園の民営化が進められているのに、どうして、藤井寺市では進まないのでしょうか 	<p>市立幼稚園の今後については、施設の類型や果たしていく役割を含め、後期計画に向けて検討を重ねてまいりたいと考えています。</p>
24	<p>【保護者について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が孤立しないように積極的に対策を検討してほしい。 ・廃園予定の園は、人数が減ることにより来年度のPTA活動にも支障をきたす恐れがある。アルミ缶回収活動で補ってきた、お別れ遠足の費用も各家庭に按分となる費用が極端に増大します。市のかたが清掃のために人手を貸してくれたり、費用を市が負担してくれたりするのでしょうか。 	<p>お別れ遠足については、一部の幼稚園では保護者の総意でバスを借り上げておると把握しております。幼稚園において、遠足にかかる費用は保護者負担としており、先生の電車賃や入館料を除き、市の予算措置はございません。</p> <p>清掃については、樹木の消毒や除草作業の予算措置を行っておりますが、害虫の被害が多いことから、消毒が中心となっております。市でも除草作業を検討してまいりたいと考えています。</p>
25	<p>【施設の安全性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における園舎の耐久性や立地の安全性なども考慮されているのか。 ・建物の改修工事を早急におこなうべきであり、子供をまとめるなど言うのはその後の話ではないのでしょうか ・(藤南) 二階天井の梁に、数え切れないほどのクラックが入っている状況を見て、もし今ここで地震でも起きたら、という恐怖心で、あまり長居したくないと考えてしまう、計画の責任者は、この建物の状況をきちんと把握されたうえでの判断なのか。 	<p>災害時における安全性の確保としまして、市の防災関連施策に則り、園の避難マニュアル等は絶えず見直しを行いながら、有事に備えています。園舎の耐久性につきましては、耐震化工事を始め、老朽化した部分を適宜修繕していくなどして、安全性を高めてまいりたいと考えています。</p>
26	<p>【施設の耐震化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化工事を行ってほしい。何かあってからでは遅い。 ・耐震化工事が行われる前の統合は反対、耐震化後に統合すべき。 ・(道東) 前期計画において平成35年3月31日までに耐震化工事、エア 	<p>耐震補強については、本年度は藤井寺南幼稚園の耐震設計を行っており、実施計画では来年の夏休みを中心に工事を予定しています。</p> <p>また、道明寺南幼稚園、藤井寺幼稚園についても、速やかな耐震補強に努めてまいります。</p>

	<p>コンの導入を目標に挙げられている。耐震化工事の設計図作成やその他関係者との兼ね合いで、今年と来年の夏休みに耐震工事を実施することは不可能だとあったが、最低でも、耐震工事完了まで待ち、統合するべきです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震工事の予定が決まり次第市民に伝える義務があると思うが、どう考えられているのか。 耐震の診断も3年前に行われていたにも関わらず、耐震補強の工事が行われなかったことが今回の統廃合でわかり、保護者は市に対して不信感を募らせている。 	
27	<p>【通園先について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大多数が新幼稚園を選んだ場合、子供が年長になる時には年少が少人数又はいない可能性もあるという事か。年少、年長との関わりはどうなるのか。 入園者が少なくなった場合、年長組の子どもが年少組の子のお世話をしたり、下の子を思いやる気持ちを育む教育が、今までと同じように出来なくなります。出来なくなった部分をどのように補ってもらえるのか。子ども、親に負担をかけないかたちでの救援策を教えてください。 旧通園先と新通園先を選択できるとのことだが、転園の発生しない新通園先を選択する可能性が高くなる。現年少の園児たちは、来年度年長組だけで1年を過ごさねばならないのか。園児にとって年長になり年少組と関わることは大きく成長することのできる過程であり、その過程を奪うことになるかもしれないこの通園先選択制は、最適な措置とは言い難い。 来年度の入園児を本園又は分園を選択できるようにするのではなく、在園児である野中分園年少児の教育の為に地区で決まっている幼稚園に入園させるという方法を取るべきだと考える。 来年入園する先を選ぶのではなく、来年一年間は月に数度、統合予定の園で合同保育をすれば、統合された後でも子供たちはゼロからのスタートにはならないし、保護者の送迎の負担も一年間は軽減されると思う。 平成30年度の4歳児は平成31年度に4歳児が入園しなければ、31年度 	<p>統合期における主な通園先の再編として、現在の通園先を募集停止とし、新しい通園先に集める方法と、現在の通園先に集めて1年後に新しい通園先に転園する方法があります。</p> <p>前者であれば、現在の通園先は年長組のみとなってしまいますが、新しい園に入園する年少組には転園が発生しなくなり、負担も少なくなります。</p> <p>後者であれば、現在の通園先は年長組と年少組になりますが、年長児童にとっては1年間賑やかな園で過ごせますが、代わりに年少組は1年後、新しい園に転園しなければならなくなり、環境も人間関係も1年で変わってしまい、こちらが負担となります。</p> <p>施設統合に当たっては、こうした時期が1年間発生することは避けることができず、前期計画では、ご家庭の意思を優先するとして保護者が選択できる制度を予定しており、各園での園児数にもよりますが、少なくなった園につきましては、その1年の間だけは年長・年少の合同保育を行ったり、統合先の園との交流を活発に行いながら、保育の質を維持したいと考えています。</p>

	<p>は5歳児クラスだけになるが交流などはどうするのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> •説明会では交流会で補うと言っていたが、それは携わる先生の努力であって、市としてなにかしてくれる訳ではなく、年長にどういう影響があるのか、その対策を市が考えなければいけないことではないか。 •計画案通りに統廃合が進められた場合、廃園前の園は5歳児組・4歳児組で人数が大きくバランスを崩すことになる事態が予想され、5歳児組と4歳児組の交流活動が極端に少なくなるといった教育効果の損失について、どのように考えているか。 	
28	<p>【通園について】</p> <ul style="list-style-type: none"> •通園距離が伸び、無理をして通わなければならない人が増え、バス通学等がある私立に人が流れてしまうのではないか。 •妊娠中で日常的に自転車に乗れない方や、雨の日に遠い幼稚園まで徒歩で通わなければならない園児と保護者の負担を市はどのように解決・補償しようとお考えですか。 •統廃合により、小学校の子と幼稚園の子を同時に迎えに行くことが難しくなるが、どう考えているのか。 •兄弟が別々の幼稚園に通うことになった保護者のお迎えがスムーズに行えるようなサポート体制を整えてほしい。 •通園距離や通園路の安全性について不安が生じる。 •通園バスの導入を検討してほしい。 •未就園児がいる場合、通園に自転車などが使えないが、どうすればよいのか。未就園児のリスクはどう考えているのか。 •通園途中の安全確保についてはどう考えているのか。 •春日丘地区の方の場合、藤井寺西幼稚園からシュラホールへ通じる道が最短距離と思われるが、車両の通行も多く安全面に不安が残る。 •真夏は朝7時の段階で気温が30度になることもあり、地面（アスファルト）の温度は60度になり、背の低い（地面から近い位置に頭部のある）子供たちはより暑さを感じる為に熱中症の危険が高まるとされている。園児たちが酷暑の中で長い距離を歩くことになれば、大変危険です。 •市は、通園距離が遠い園児は2.2km程と把握しているのに、遠くなる園 	<p>前期計画における市立幼稚園の統合に当たっては、送迎バスの導入は予定していません。</p> <p>通園路の設定にあたっては、安全な経路とするよう幼稚園と調整してまいります。また、保護者の要望により道路管理者に対し危険個所の改善や警察の取り締まりを依頼してまいります。</p>

	児に対する措置が考えられていない。	
29	<p>【後期計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 公立の幼稚園に対しての扱いがあまりにも酷すぎる。前期計画と後期計画は逆にすすめるべきではないか。 • 幼保一体となるなら、出来るならクラスを分けて欲しい。 • 統廃合後、園児が減少すればまた統廃合するのか。 • 統合をしても公立幼稚園存続の解決にはならない。市は更なる努力をするべきである。 • 統合よりも先に、後期計画を進めるべきではないか。 • 公立幼稚園の制度を変える必要がある。(延長保育、私立との差別化) • 幼保一体になるならクラスを分けてほしい。 • 保育園に入りたくても入れない人が多い中、幼稚園はどこもガラガラな状態なので、どこも子供園にしていく計画を進めていただきたい。 • クラスとして使っていない部屋を整理し、小学校の中に幼稚園を作る案に賛同する。新たに耐震工事をする必要もなく、給食導入・小学生との交流も可能だと思う。道路の安全の問題も、小学生の兄弟がいる家庭での下校時間が重なることによる安全面も考える必要がなくなる。 • 後期計画までに、人数が減ってしまうのではないか。その後、後期で検討するのでは遅すぎる。 • 藤井寺市が真っ先にすべき事は、子育て世代のニーズにあって、保育所の入所制限を緩和し、幼稚園教育を3歳にまで拡大し、不足する保育所需要・余剰ある幼稚園需要のミスマッチを解消する幼保を隔てる壁を取り去る幼保の一元化をし、幼稚園教育を3歳にまで拡大することである。 	<p>前期計画における市立幼稚園の統合については、集団教育の効果の確保と保育の質の維持・向上のために立案されたものです。</p> <p>藤井寺市として、市立幼稚園・保育所をどのようにしていくのか、幼保一体化や認定こども園への移行、学校施設などとの複合化など、施設の類型だけでも考え方は様々です。</p> <p>その中で、施設が果たしていく役割についても多様な意見があり、市立幼稚園・保育所の今後については、こうした諸課題について専門的な審議に諮ったうえでもう一度あり方検討を行い、その結果を後期計画においてお示しする予定となっています。</p>
30	<p>【待機児童について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ふじみ緑地新設保育所で対応予定とあるが、この施設ができることで、現在の待機児童は完全に解消するのか。解消するならば、その上でどのくらいの余裕があるのか。 • ふじみ緑地の新設保育所は民間の施設だが、市が(ふじみ緑地の新設保 	<p>【就園児数について】でも記載しておりますが、平成30年4月1日現在で待機児童と入所待ちも児童が合わせて71人となり、施設の利用定員が150人となりますので、待機児童については一定の解決が図れるものと考えています。</p> <p>ふじみ緑地の民間保育所以降の保育施設建設計画については、公立・民</p>

	育所のような病児保育も含めた) 保育所を新設する予定はないのか。	間含めて未定となっています。
31	<p>【幼稚園と保育所の格差について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 幼稚園の子ども、保育所の子どもはもっと平等に考えられるべきであり、幼稚園にこれだけ空きがあるのならば、そこで保育の必要な子どもを受け入れる体制をとってほしい。 • 公立保育所は定員591人のところに626人が押し込められているのに幼稚園は定員840人の園を314人で使っているという。同じ藤井寺市のこどもなのに保育所と幼稚園の格差がひどすぎる。 • 本当に子育てのしやすいまちづくりを目指すなら幼稚園にかけているぶんの税金を削減し、保育所を充実させていくのが行政の務めだと要望する。 	<p>待機児童解消につきましては、市立保育所の受け入れ枠の拡充、民間保育所の新設や増築、定員の弾力化、簡易保育施設における受け入れ枠、小規模保育事業所の誘致等を行ってまいりました。現在、ふじみ緑地を活用した民間保育施設の整備が進んでおり、平成32年4月開園を予定しています。</p> <p>今後も、待機児童の解消を最優先に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
32	<p>【市の財政問題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 財政的に厳しいのであれば、市役所職員を半数以下に減らし、業務を外部に委託する。 	<p>市では、これまで職員給与の削減を実施し、継続しております。また、職員数の削減に努めると共に、市直営から民間サービスへの委託も含めた取り組みを進め、経費の削減に努めてまいりました。</p> <p>厳しい財政状況の中、今後も多様な行政ニーズに的確に対応できるよう努めてまいりたいと考えています。</p>
33	<p>【今後の子育て施策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今後、進んでいく少子高齢化社会において、子育て世代、子供を取り込む政策を進めずに、目先の事案ばかりを追うような計画で、本当に藤井寺の未来が守られるのか心配。 • 統合前に子持ちの家庭が住みたくなるような政策が必要。 	<p>藤井寺市においては、第五次藤井寺市総合計画に記載されるまちづくり重点戦略「子ども・子育て安心プロジェクト」に従い、様々な課題に取り組んでいます。</p> <p>今回の計画では、集団教育の効果の確保のため、市立幼稚園の施設統合という方法を採用することになりましたが、後期計画に向けては、保育所等を含め、公立施設として果たしていく役割をしっかりと議論し、より良い幼児教育・保育の提供を目指したいと考えています。</p> <p>他の施策につきましても、地域子育て支援拠点事業の拡充や大きな課題の一つでありました病後児保育事業について、ふじみ緑地に新設される民間保育所での実施に向け動き始めるなど、市の子育て支援施策の充実に取り組んでおり、今後も子育て世代に選ばれるまちづくりを目指して適宜検討を重ねてまいりたいと思います。</p>